

人権学習展開例〔第5学年〕

1 主 題 多様性の尊重

2 教材名

11 ちがうこと ばんざい



3 主題・教材について

人には、様々な違いがある。だからこそ、いろいろな人とつながりを持ち、違いを認め合うことで、暮らしを豊かにできる。ところが、私たちの社会では、「みんな同じ」であることを重んじる傾向も見られ、時として、「みんなと同じでないこと」を理由とし、一部の人を排除することにもつながっている。

この教材は、一人一人をかけがえのない存在と捉え、一人一人が違うからこそ素晴らしいということを訴えている。自分自身をかけがえのない存在と捉えさせるとともに、違いを認め合うことの大切さを考えさせたい。

(関連教科・領域：国語、道徳)

4 ねらい ・一人一人が違うことのすばらしさや、その違いを認め合うことの大切さに気づく。

5 展開例

選	主な学習活動	指導上の留意点	備考
導 入	一人一人は違うということを確認しよう。		『なかまとともに 小学校1』「11 つながりさがし」
	・「つながりさがし」をする。	・1回するごとに、友だちとの共通点や相違点を確認させる。	
展 開	一人一人が違うとは、どういうことだろう。		
	・第1連を読む。 ・みんなが同じだったらどうなるかを考え、発表する。	・一人一人が違っているからこそ素晴らしいということに気づかせたい。	
	一人一人の大切さについて考えよう。		
開	・第2連を読む。 ・感想を話し合う。	・自分自身も含め、世の中の全ての人がかげがえのない大切な存在であることに気づかせたい。	
	「ちがうこと ばんざい」を表現してみよう。		
ま と め	・第3連を読む。 ・筆者が伝えたかったことを考え、発表する。 ・それぞれに好きなポーズを取りながら、みんなで「ちがうこと ばんざい」と言ってみる。	・それぞれの意見を聞き合うことで、互いの考えを深めさせたい。 ・表現活動を通して、実感をもたせたい。 ・手話などを取り入れるのもよい。	
	学習をふり返ろう。		
	・学習をふり返って感想を書く。	・自分の暮らしを重ねて考えさせる。	

※ 作者について【牧口 一二(まきぐち いちじ)】

1937年8月、大阪市生まれ。翌年、ポリオ(脊髄性小児まひ)にかかり、歩けなくなる。戦争のため、3年遅れで地域の小学校に入学し、松葉杖で通学する。美術学校を卒業後、就職活動を行うが、全て不採用となり、障害者を自覚する。障害者の社会進出をテーマに、市民運動などを展開している。